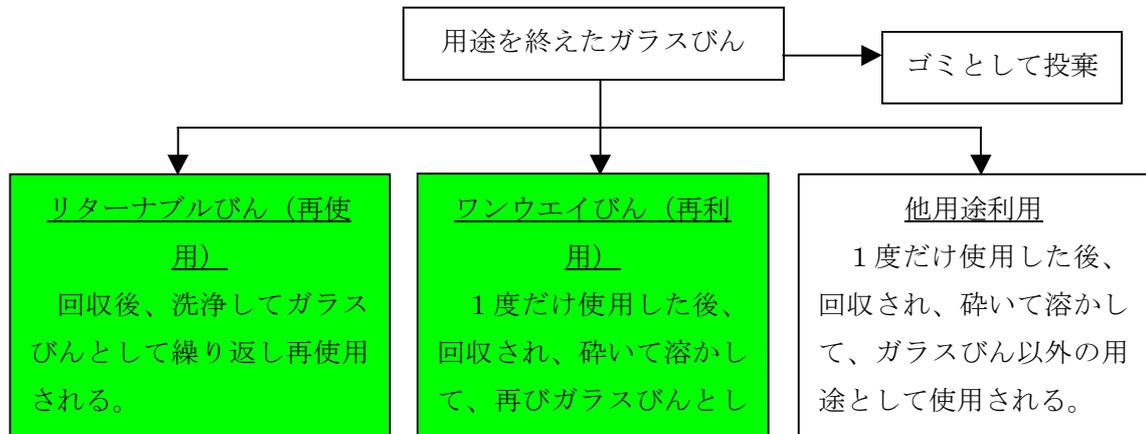


< ビールびんの回収率は99% >

現在、その用途を終えたガラスびんの「ゆくえ」は、主に次のようになっています。



ここでは、ガラスびんの再使用・再利用について見ていきましょう。

① リターナブルびん (再使用)

びんを回収後、きれいに洗浄して、もう一度中身を入れ、販売できるびんのことで、ガラスびんのりサイクルの中では、最も無駄がなく、また古くから採り入れられてきたシステムです。現在、代表的なビールびんでは99%、一升びんでは88%が回収され、再使用されています。

また、これらのびんを使用した商品には、価格に一定の「保証金」を含めて販売し、あきびんを酒店などに引き取ってもらう際に、保証金を返却するという制度があり、既に定着しています。

② ワンウェイびん (再利用)

リターナブルびんと違い、一回限りしか使用できません。これまでは、使い終わると捨てられゴミになっていましたが、集団分別回収などで収集された空きびんは、砕かれて「カレット」と呼ばれるガラス原料となり「カレット業者」から「ガラスびん製造者」へ流れ、新しいびんに生まれ変わります。自治体による分別収集や自治会などの地域団体の自主的な集団回収をはじめ、酒販店やスーパー、ホテルなど、大量に排出する事業所からも回収されており、現在のカレットの利用率は77.8%となっています。